

開校準備委員会の経過と見通し

義務教育学校開校に関する説明会

令和5年10月19日

飯豊町教育委員会

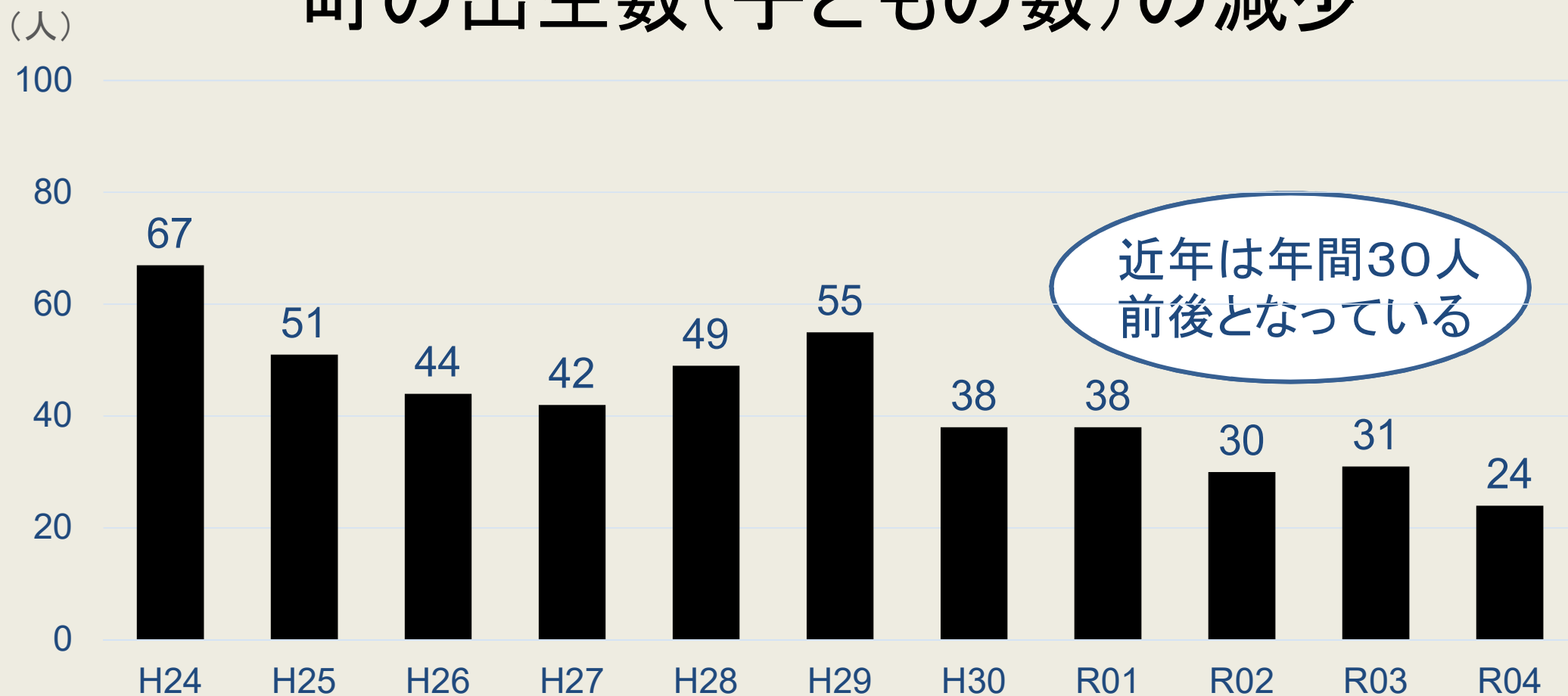
説明内容

1. 義務教育学校について
2. 開校準備委員会について
3. これまでの決定事項など
4. 開校に向けて

説明内容

1. 義務教育学校について
2. 開校準備委員会について
3. これまでの決定事項など
4. 開校に向けて

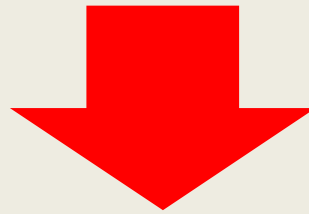
町の出生数(子どもの数)の減少



学校現場で予測されること

小学校での複式学級のさらなる増加

現在、小学校 2 校に複式学級がある。



子どもの減少でさらに増えることが予測される。

学校現場で予測されること

中学校で1学年1学級になる

教員数が減少し、免許外の教科指導を余儀なくされ、教員の負担が増大する。

今、町の教育に求められるもの

小学校の先生と中学校の先生のを合わせ、
持続可能で活力ある学校を目指す。



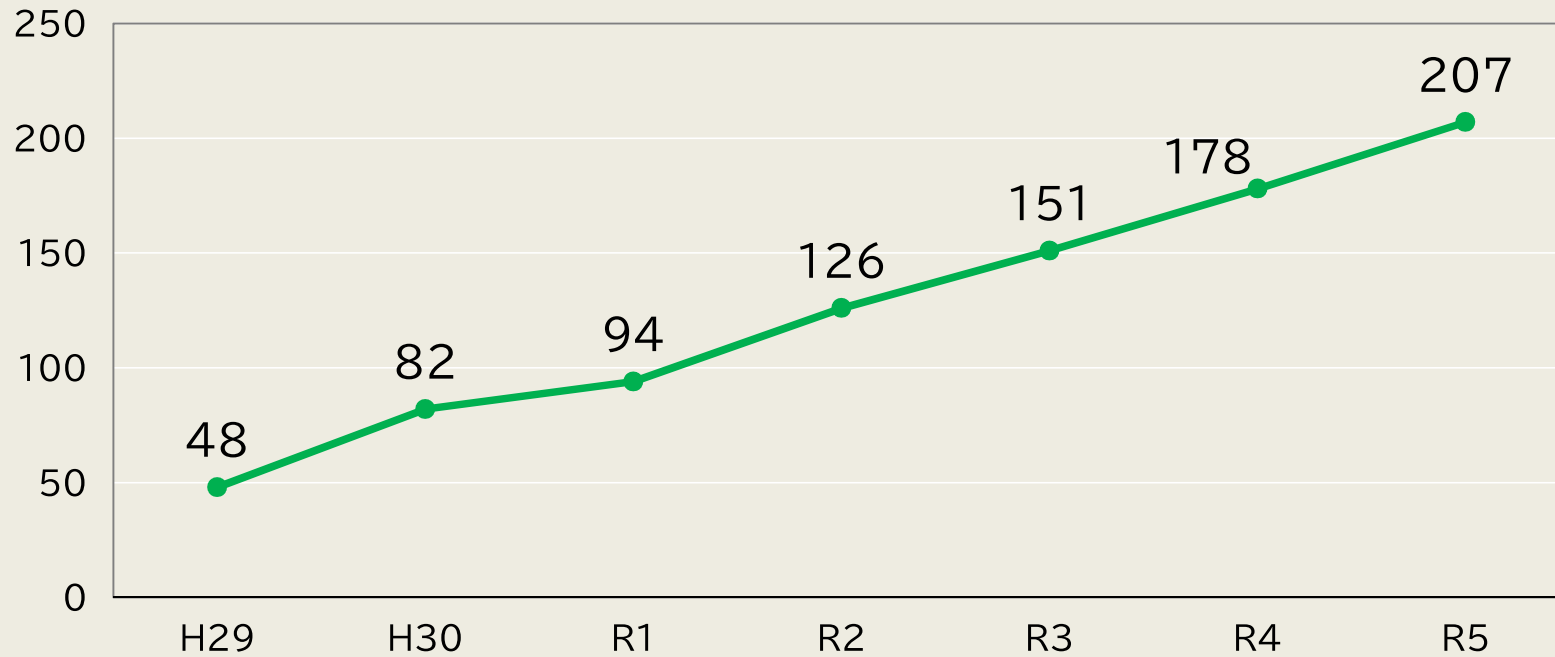
小学校から中学校までの一貫した教育
義務教育学校への革新



義務教育学校とは

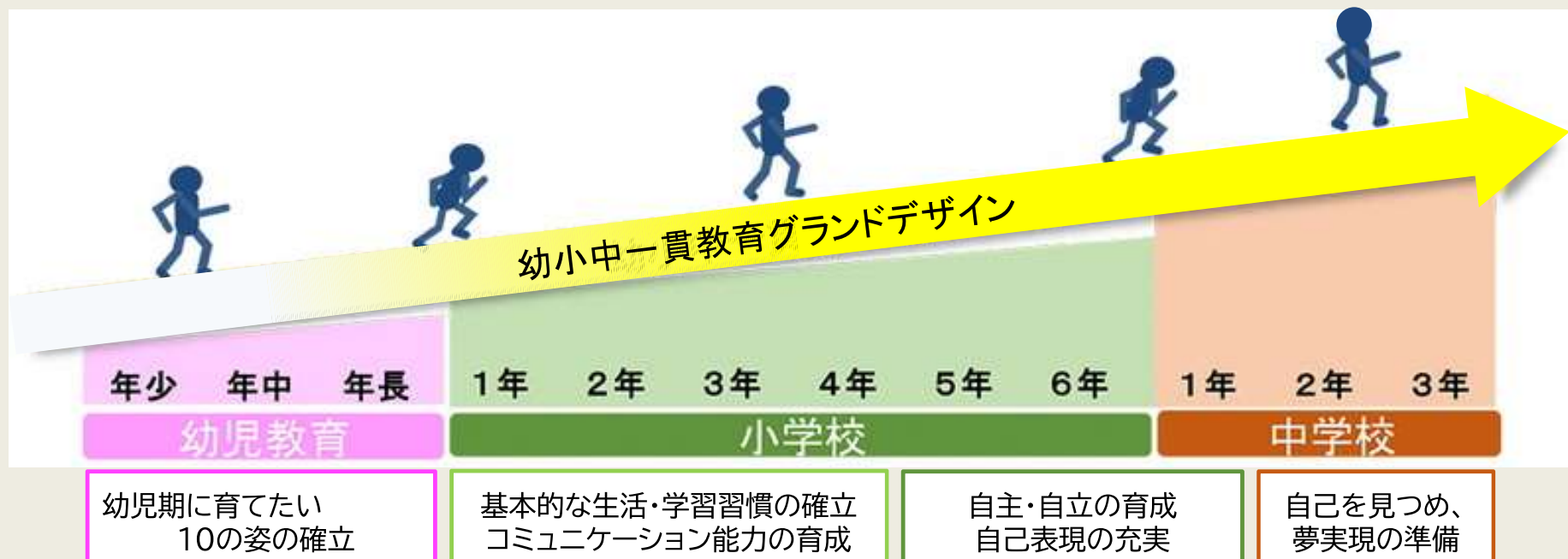
- 学校教育法の改正により平成28年に新設された学校教育制度
- 義務教育学校は、小学校課程から中学校課程まで義務教育を一貫して行う学校

全国の義務教育学校数



- 令和5年度の全国の義務教育学校数は207校
- 県内には3校（戸沢村と新庄市）。朝日町でも計画
- 全国的に義務教育学校の数、増加している

小学校から中学校までの一貫した教育



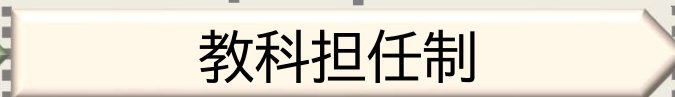
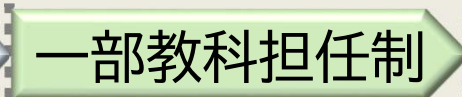
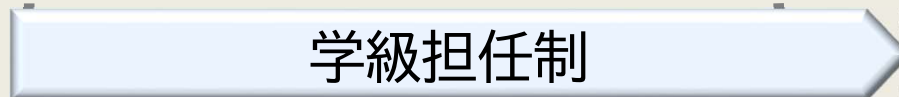
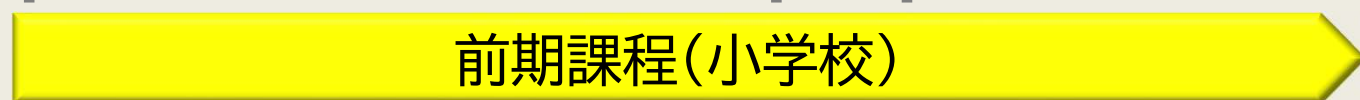
幼・小・中が、中学校卒業時の「目指す子ども像」を共有し、共通の目標をもって実践していく。

(仮称)飯豊義務教育学校

ファーストステージ

セカンドステージ

サードステージ



(仮称)飯豊義務教育学校

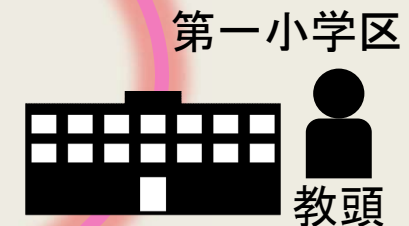
令和8年度

■仮称「中学舎」(現飯豊中)



- ・セカンドステージ(5~7年生)
- ・サードステージ(8・9年生)

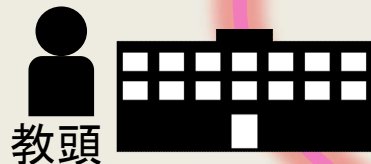
■仮称「北学舎」(現第一小)



ファーストステージ(1~4年生)

■仮称「南学舎」(現第二小)

第二小・手ノ子小・添川小学区

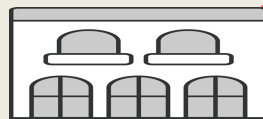


ファーストステージ(1~4年生)

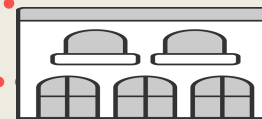
飯豊型義務教育学校
(施設分離型)

連携

すくすくこども園



わくわくこども園



(仮称)飯豊義務教育学校

義務教育学校
(施設一体型)

将来的構想

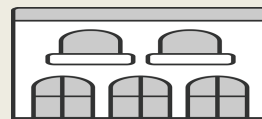
ファーストステージ用学舎(1~4年生)



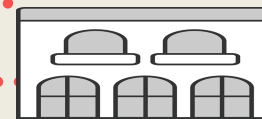
教頭 校長 教頭

セカンドステージ用学舎(5~7年生)
サードステージ用学舎(8・9年生)

すくすくこども園



連携



わくわくこども園

説明内容

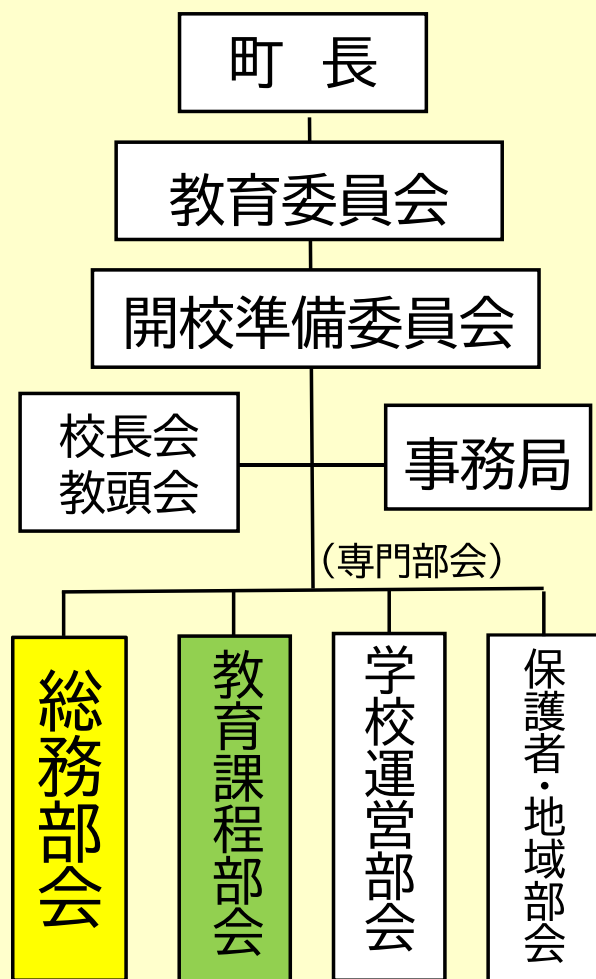
1. 義務教育学校について
2. 開校準備委員会について
3. これまでの決定事項など
4. 開校に向けて

飯豊町義務教育学校開校準備委員会

- ・ 校名、校歌、校章、教育課程、制服、通学、PTAなど開校に向けて必要な事項を協議する
- ・ 委員は22名、保護者や地域の代表、学識経験者、学校の教職員の代表を主体とする

開校準備委員会に専門部会を設置

- ・ 専門部会を設け、多岐にわたる協議事項を個別に検討していく
- ・ 部員は延べ45名。委員のほか、PTA 母親委員、こども園保護者会会長、地区公民館長などを選任



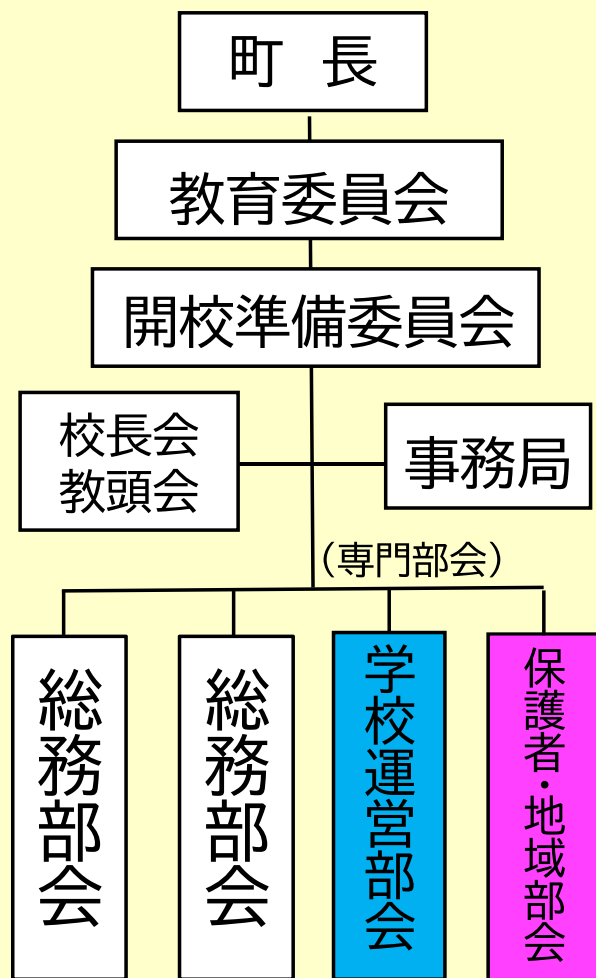
開校準備委員会での 主な検討事項

総務部会

学校名、校歌、校章、制服 等

教育課程部会

学校教育目標、経営方針 等



開校準備委員会での 主な検討事項

学校運営部会

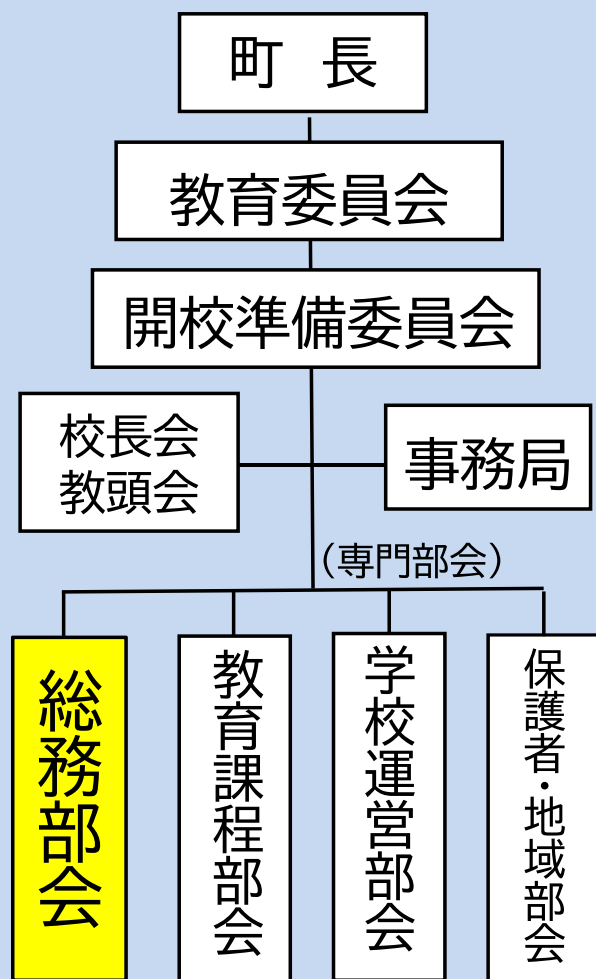
指導計画(学習、生徒会等)

保護者・地域部会

PTA、スクールバス等

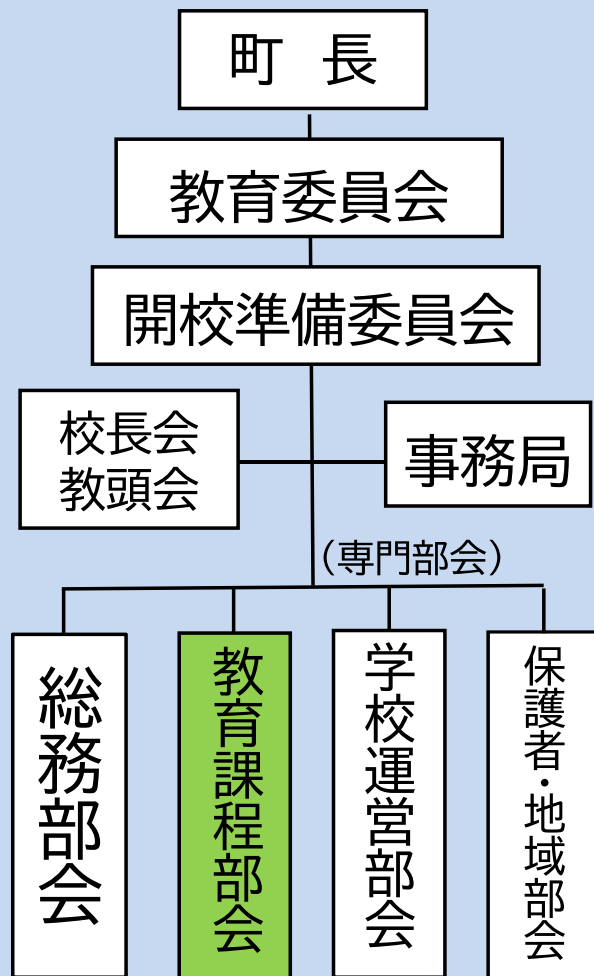
説明内容

1. 義務教育学校について
2. 開校準備委員会について
3. これまでの決定事項など
4. 開校に向けて



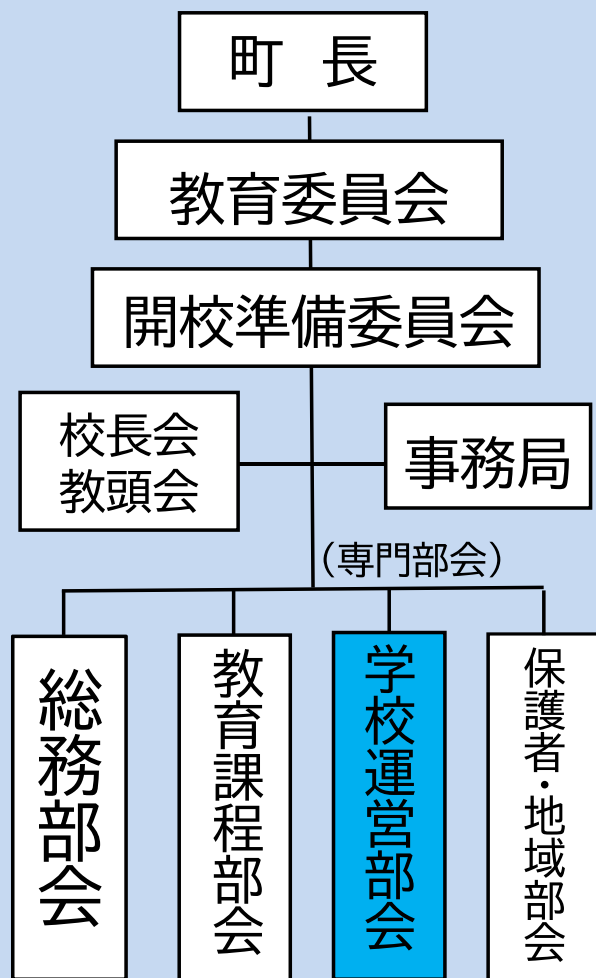
開校準備委員会で協議したこと

- ・校名を公募して選定する
- ・「校章デザイン及びその理由」を校名決定後に公募する
- ・制服等への考え方の事前アンケート(対象限定)を実施する
- ・閉校式典は町が主催する



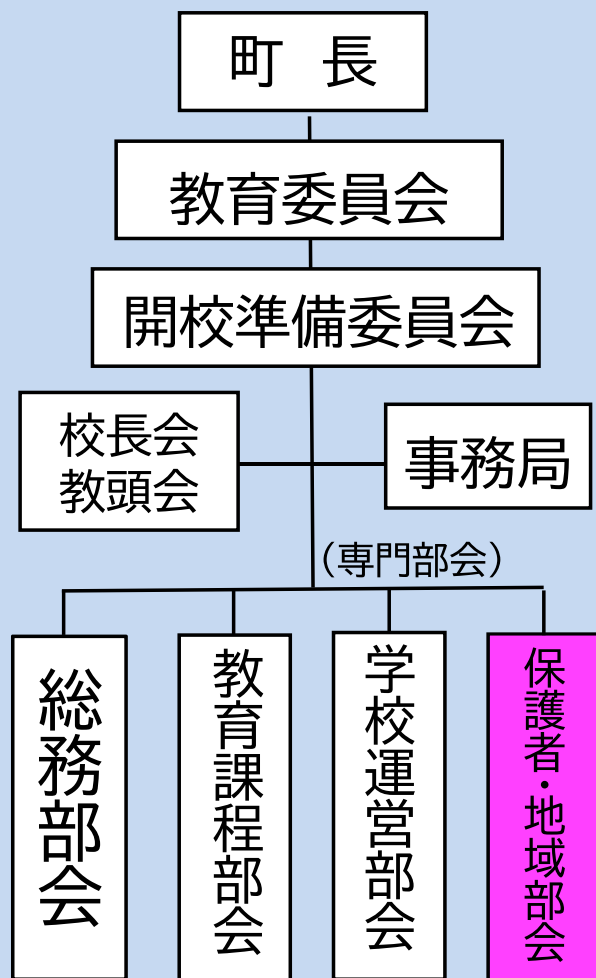
開校準備委員会で協議したこと

- ・学校教育目標等を「知、徳、体、郷土愛」の観点で検討する
- ・義務教育学校の日課表を小国町立叶水小中学校のものを参考にして検討する



開校準備委員会で協議したこと

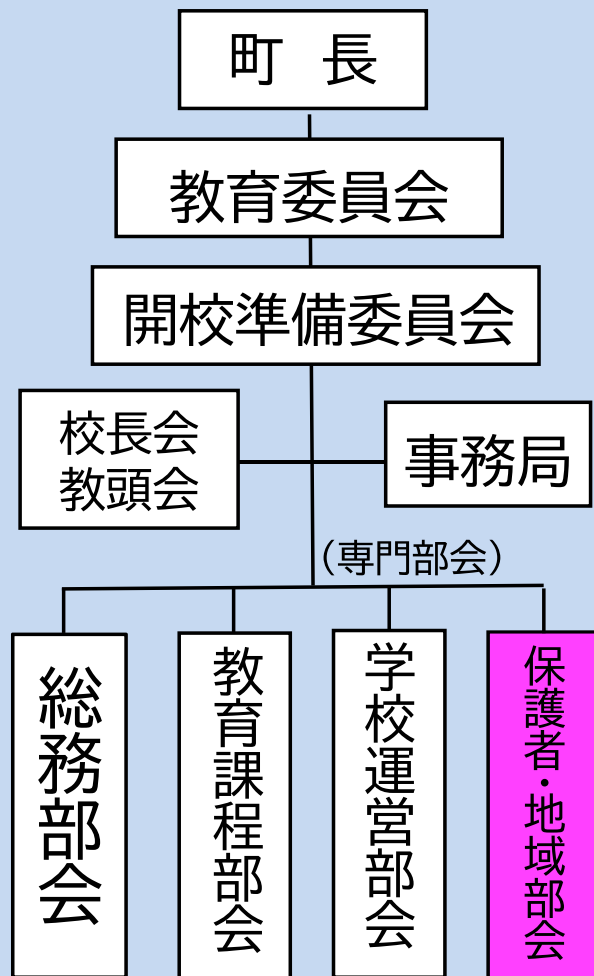
- ・児童会・生徒会活動の計画について、新庄市立萩野学園のものを参考に検討する



開校準備委員会で協議したこと

スクールバスに関して

- ・対象となる児童・生徒
 - ・運行方法及び乗車場所
 - ・必要なスクールバスの台数
- などを検討していく

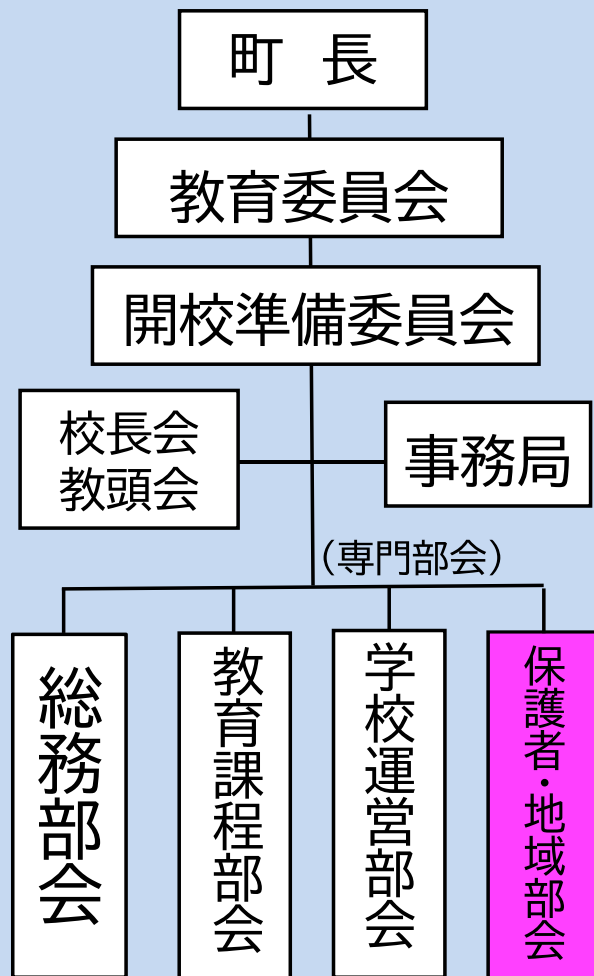


開校準備委員会で協議したこと

通学路・通学班に関して

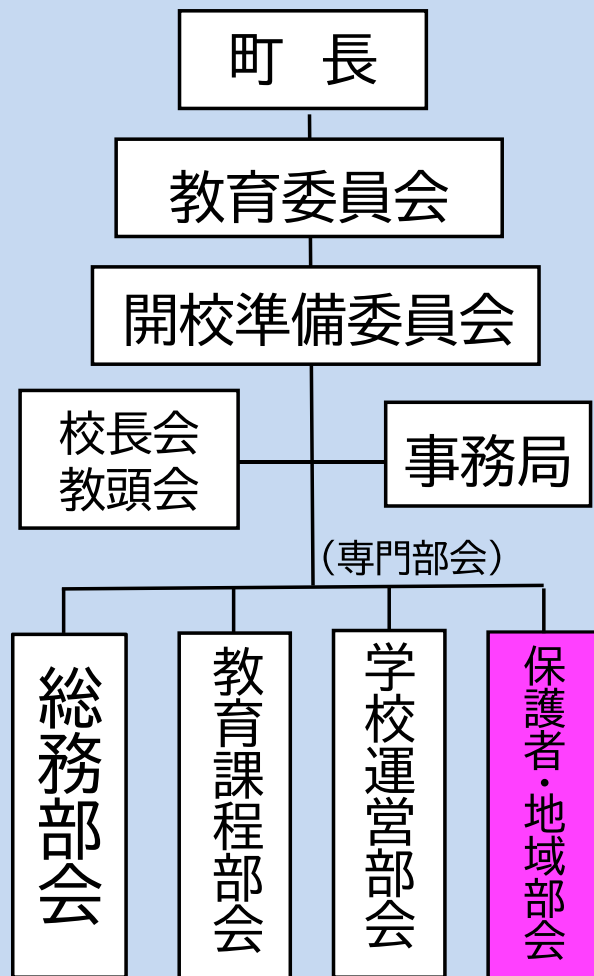
- ・通学方法(徒歩・自転車等)
- ・通学路の選定
- ・通学の安全確保

などを検討していく



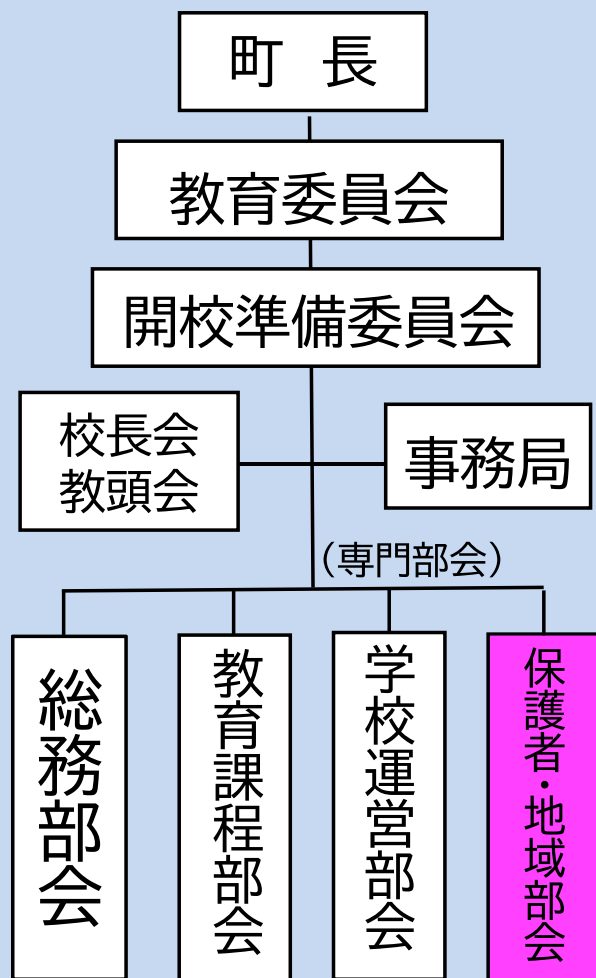
開校準備委員会で協議したこと

- 学校運営協議会のあり方
「地域と共にある義務教育学校」づくりを第一に考え、現存の各校運営協議会での検討を集約していく(組織形態、委員構成等)



開校準備委員会で協議したこと

- ・「合同地域学習」の進め方
各学校の教育課程に基づき実施し、実施にあたり地域学校協働活動推進員が連携を取りながら活動をサポートしていく



開校準備委員会で協議したこと

- ・PTA組織及び後援会組織は設置してもらうことをお願いしていく

開校準備委員会で決まったこと

「校名候補」を選定

| | |
|------|-----------|
| | いいで(飯豊)学園 |
| 飯豊町立 | いいでの森学園 |
| | いいでめざみ学園 |

- * 応募数 169件（98候補名）
- * 選定の観点（新設校に対する夢や期待を表す、本町の学校にふさわしい、親しみやすい等）

説明内容

1. 義務教育学校について
2. 開校準備委員会について
3. これまでの決定事項など
4. 開校に向けて

今後、決めていくこと

- 校章デザインや校歌
 - 学校教育目標、経営方針
 - 指導計画、部活動に関すること
 - 制服や運動着のこと
 - スクールバス、通学路、通学班のこと
 - 閉校式典や記念事業
- など

町民の皆さんにとって、
学校がどうなるのか、
わからないこと、不安なことが
たくさんあると思います。



教育委員会では・・・

「広報いいで」に、義務教育学校開校に関する連載をしています。

第6回

義務教育学校とはどんな学校？（前編）

町が、令和8年度までに義務教育学校開校を決めた理由をこれまで説明してきましたが、今回は、そもそも「義務教育学校」とは、どんな学校なのかを解説したいと思います。



義務教育学校は、学校教育法の改正で平成28年に新しく定められた学校制度です。小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う学校で、小学生と中学生が同じ校舎で学び、学校生活を共にします。私たちの慣習となっている6・3年制の小・中学校が、6年生の学校になるといじり出すから、大変革です。

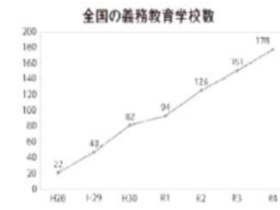
全国的に義務教育学校は、増加傾向にあります。令和3年度に151校だった義務教育学校は、翌年度の1年間で27校増え、令和4年度は全国で178校となっています。山形県内では、新庄市に2校（明倫学園と森野学園）、戸沢村に1校（戸沢学園）あります。

小学校と中学校が一体となることで、どんなメリットがあるのでしょうか。町にとっての大きなメリットは、複式学級の解消があげられます。児童・生徒が揃うことで、そのスケールメリットを生かし、多様な学校環境をつくりだすことができます。子どもたちのさまざまな個性に触れ、切磋琢磨により社会性を育む学校を目指してきます。

義務教育学校は、学校教育法の改正で平成28年に新しく定められた学校制度です。小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う学校で、小学生と中学生が同じ校舎で学び、学校生活を共にします。私たちの慣習となっている6・3年制の小・中学校が、6年生の学校になるといじり出すから、大変革です。

全国的に義務教育学校は、増加傾向にあります。令和3年度に151校だった義務教育学校は、翌年度の1年間で27校増え、令和4年度は全国で178校となっています。山形県内では、新庄市に2校（明倫学園と森野学園）、戸沢村に1校（戸沢学園）あります。

小学校と中学校が一体となることで、どんなメリットがあるのでしょうか。町にとっての大きなメリットは、複式学級の解消があげられます。児童・生徒が揃うことで、そのスケールメリットを生かし、多様な学校環境をつくりだすことができます。子どもたちのさまざまな個性に触れ、切磋琢磨により社会性を育む学校を目指してきます。



義務教育学校のメリットの例

- ・複式学級の解消
- ・指導する時期（学年）や指導時数の柔軟性
- ・系統性・連続性を意識した小中一貫教育
- ・中1の壁・小中ギャップの緩和・解消
- ・異学年交流による精神的な発達
- ・継続的な生徒に対する指導

義務教育学校は、学校教育法の改正で平成28年に新しく定められた学校制度です。小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う学校で、小学生と中学生が同じ校舎で学び、学校生活を共にします。私たちの慣習となっている6・3年制の小・中学校が、6年生の学校になるといじり出すから、大変革です。

全国的に義務教育学校は、増加傾向にあります。令和3年度に151校だった義務教育学校は、翌年度の1年間で27校増え、令和4年度は全国で178校となっています。山形県内では、新庄市に2校（明倫学園と森野学園）、戸沢村に1校（戸沢学園）あります。

小学校と中学校が一体となることで、どんなメリットがあるのでしょうか。町にとっての大きなメリットは、複式学級の解消があげられます。児童・生徒が揃うことで、そのスケールメリットを生かし、多様な学校環境をつくりだすことができます。子どもたちのさまざまな個性に触れ、切磋琢磨により社会性を育む学校を目指してきます。

飯豊町で新しい学校教育が始まります
魅力ある義務教育学校の開校を目指して

教育委員会では・・・

開校準備委員会で決まったことを「便り」を発行（組回覧・ホームページ掲載）して、お知らせしていきます。

飯豊町義務教育学校

開校準備委員会 だより

組回覧

第 2 号 令和5年8月発行
編集・発行 開校準備委員会
----- 問い合わせ先 -----
事務局：教育総務課学校教育振興室

◆◆第2回 開校準備委員会を開催しました◆◆

と き 令和5年7月13日（木） 午後6時30分より
と ころ 東部地区公民館
内 容 委員長・副委員長の選出 新委員への委嘱状の交付



▲第2回開校準備委員会の様子

委員長・副委員長が選出されました（敬称略）

委員長 伊藤 毅 第二小学校学校運営協議会長
副委員長 金田 孝善 飯豊中学校長

委員長の挨拶



伊藤 毅 氏

委員長という重責を引き受け、身の引き締まる思いです。小学校6年、中学校3年の学制が定められてから今年で150年目になります。その節目の年に、国が定めた制度を市町村が変革することができます。3年後にすてきな学校が開校できるように、皆様のご協力をお願いいたします。

| 氏名（敬称略） | 役職等 |
|---------|----------------|
| 黒澤 哲人 | 第一小学校学校運営協議会長 |
| 高橋 敏夫 | 手ノ子小学校学校運営協議会長 |
| 井上 和浩 | 飯豊中学校学校運営協議会長 |

*新委員として、令和5年度より新しく学校運営協議会長になられた左記の皆様が委嘱いたしました。

協 議 ○各専門部会の報告事項について *協議の上、承認された事項は以下の通りです。

総務部会 義務教育学校の「校名」の選定方法を決定

本委員会で、校名を募集して選定していくことが承認されました。

「校名及びその理由や想い」を公募し、公募結果を参考にして、総務部会及び本委員会で校名候補を選定し、その後、教育委員会、総合教育会議の決定及び町議会の議決を経て正式に校名を決定します。なお、応募数の多いものを、校名に決定するものではありません。

◇応募対象 どなたでも応募できます ◇応募締切 令和5年8月23日（水）まで

◇応募方法 こちらのQRコードから応募フォームにアクセスして応募できます



今後、教育委員会では…

- ・経過報告を兼ねた説明会をこれ以降も適宜に開催していきます。
- ・義務教育学校についてのご質問をEメールで受け付けるほか、あ～す、地区公民館等に「質問箱」を設置していく予定です。